

からよけい美味しいんでしょう。
 司会：森の家のお釜は何升炊きですか？
 中尾：八キロ炊きです。五升六合になりますね。この間は五キロ炊きました。ガス釜だから早いです。でも、そんな大きい釜は普段使わないので、水加減が難しいです。
 矢田：昔は、葬式や何じや言ったら、七十人分くらい作ったりしよったけど、今は、しらんね。
 司会：兵站部も大変ですね。そんな大きな釜を、かけたりはずしたりするのも大変でしょう。男性の支援は要らないですか。
 西川：今は、城戸さんのぞいてくれ寄るから。
 城戸：僕は、腰が悪いから、二人で抱えなため。
 司会：昼食まで、予算が無いという中で、津田さんの、「弁当は出さないうけん。自分が作ってくる」という一言で、発足時からつけることになったが、ほんとに出すようにして良かったですね。西川：みんな、楽しみにしてありますものね。

し合う場があれば、参加してみたいと思う方はいませんか？
 石村：最近、石楠花を植えたり、もみじ谷の整備をしたり、さくら友の会の方針が変わったのですか？
 城戸：さくら友の会の定款にも、「桜をはじめ樹木の維持管理」と、述べています。桜だけでないのは当初からの方針です。
 石村：あんまり手を広げすぎると、桜の管理がある所かになり失敗するのではないのでしょうか。
 城戸：そういう心配はありますが、新しいと思えることも、維持管理部会の人たちが、自ら発案してやっているので、今のところ問題はないと思います。桜以外の作業を見ても、また、新しい人たちが加われば、よい循環が得られると思います。
 会合の出席時間
 司会：会合の時間、昼夜どちらがいいですか。
 一同：この歳になったら、夜でも昼でも何時でもよい。(笑い)
 アッシー君
 司会：皆さん、足の方は問題はありませんか？
 横田：自分は運転できないのでいつも矢田さんの

車に乗せてもらってくる。矢田さんが都合の悪いとき、深坂にどうして行った方がいいか。
 西川：女性の方で新下関から歩いてくる人が居た。途中で見つけたので車に乗りました。自分自身は歩くのが運動から歩きよるという、乗られなかった。
 平田：凄いです。着いたら、もう、仕事できんよ。(笑い)
 西川：また、八十六才のおばあちゃんが、自転車で乗って深坂に来てある。その方は、深坂茶屋の崖の上で、鎌持って草刈されよるから、みんなが、もう、はらはらして、「やめてくれえ。」というんやけど、「自分なら大丈夫。息子たちに見つかったら怒られるけどな。」というて笑うてあつた。(笑い)
 一同：ウー、動くから元気なんやろねえ。みんな、自分のペースでやればいい。
 城戸：安岡の海岸の方から歩いて来られるおじいちゃんもあります。
 安全
 司会：幸いにして今まで怪我した人は、理事長のほかには居ない。
 西川：そうなんよ、理事長は指を切ったり蜂に刺されたり、みんなの分を一人で背負って怪我してあるから、他の人は無事。(笑い)
 岡本：作業のとき長靴はいて来んといけんね。蛇が怖い。
 平田：長靴より地下足袋がええ。作業しやすい。



出席者
 女性
 石村 矢田
 岡本 山田
 中尾 横田
 平田
 西川 (事務局長)
 男性
 城戸 (会員交流部会長)
 野口 (司会、広報部会長)
 合計十名

西川：そういうええ、まだ、あんまり蛇が出たと言う話はあまり聞きませんね。
 石村：桜の木の近くまで、先に鎌で刈ってあると、木の周りを鎌で刈るのが楽なんやけど。
 西川：それしたら、桜の木を切ってしまう。今まで何本でも、あつと言ったらもう切つとる。今年はまだ一本だけやけど。(笑い)
 山田：維持管理の人たちはようされますね。
 西川：それはもう大変、毎週日曜日は草刈。ほんと、頭が下がります。それも楽しんでやからね。福富さんが、「だれか女の人が、『ボランティアは人のためにしとるようやけど、本当は自分のためやね。』というつたが、それがほんと。」というて感心しとつちやつた。
 連絡
 西川：皆さんは、ケイタイメールはお持ちですか？殆どお持ちですね。それじゃ、連絡は楽です。足の都合がつかない人は、事前に連絡いただければ、誰か乗せてくれる方を斡旋できるかもしれません。
 司会：今日はお忙しい中、長時間ありがとうございます。一同：何か加勢することがあつたら、何時でも言うてください。

座談会は、終始和やかな雰囲気が進められた。気がついたことは、女性は、遊ぶことと、食えることについて、すぐ意気投合して盛り上がる。現実的だということだ。男性の間では、五十年後、百年後のマスタープランを描こうとか言っても笑われることは無いが、女性たちの間では乗りが悪い。苦しい現実に追われ、夢を見るより、遊んで食える実質を取ってきたいか。あるいは、夢みたくないことばかり言っているご主人たちに、夢では飯が食えないと、手綱を締め続けてきたからかもしれない。たしかに、夢を追っている人たちだけでは、夢が現実になることは無い。数々の夢のような大事業が、完成した裏には、それを理解して協力し続けてきた現実派の人々の協力があつてこそだろう。偉大な作曲家に女性が少なく、ピアノ、バイオリンなど優れた演奏家には、女性が多いのも何か関係があるかもしれない。理想家と現実家、それをつなぐものがあるとすれば、若い男女や家族ではないだろうか。子ども、幼子、動けない病人や、お年寄りなどと一緒の家族など、層の厚さが応援となつて、会をますます活発にする気がする。